

校長先生からのメッセージ

「学校長式辞」と折々の軌道修正

～ 立科小・中学校の児童・生徒誰もが充実した学校生活を送るために～

立科町教育相談員 岩上起美男

立科小・中学校の入学式から二カ月が経ちました。児童・生徒は、入学や進級による学習環境の変化にも随分慣れ、それぞれが成長上の悩みや課題を抱えながらも、学校生活は軌道に乗りつつあるのではないのでしょうか。

ただし、「慣れ」には、「初心を忘れることなく、新しい環境に適応している。」という面と、逆に「初心が薄れ、日常の繁忙さにかまけて惰性的に順応している。」という心配な面もありますので、「慣れ」の内容については十分注意する必要があります。

「習性」となる「習慣」というものは、身に付いてしまうと、その人の生まれつきの性質と同じようになる。という故事があります。環境に慣れ、習慣ができますと、良い習慣も悪い習慣も、その人の生来の資質に同化するということです。したがって、早寝早起きや整理整頓、時間厳守、清々しい挨拶、栄養バランスの良い食生活、予習・復習、読書、運動、家事手伝いなど、良い習慣を身に付けることは非常に大切です。しかしその反面、夜更かし朝寝坊とか、偏食とか、遅刻とか、散らかしとか、陰口とかの悪習慣も、その人の人格に染み込んでしまいますので、好ましくない生活習慣が身に付かないように心がけましょう。

悪しき「慣れ」によって、当初抱いた目標や決意と、今現在の自分の姿がずれてきたとき、また、目標そのものを変更する必要が生じたときには、そのずれを取り返しのつかない大きな亀裂にならないうちに、軌道修正しましょう。なぜなら、「二分八間」(弓矢を射るときに、狙いが一分(3mm)ずれると、的の位置では八間(約14m)もはずれてしまうので、出発に当たっては、目標をしっかりと定めなさい。)という先人の教えの通り、目標をきちんと定め、その目標に向かって、日々、方向のずれを修正しながら歩むことは、子どもの心身の健やかな成長にとって不可欠な姿勢であり、大切な営みであるからです。

入学式や卒業式には、必ず「学校長式辞」があります。校長先生は、学校としての「一分八間」である、この「学校長式辞」のために、先生方との検討や情報交換を重ね、自校の児童・生徒の実態と課題を明確にして、児童・生徒の進むべき道を見定めています。そして、そのメッセージを分かり易く、端的に伝えることに心を砕いています。

本年度入学式の「学校長式辞」を拝聴しながら、このような立科小・中学校の校長先生の誠意がひしひしと伝わって

くるのを感じました。そしてまた、夢のケールビジョンでご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、お二人の校長先生からのメッセージは、児童・生徒のみならず、保護者や地域の方にも共有していただきたい大事な指針ではないか、と考えさせられました。

